

視察調査報告書

委員会名	福祉病院委員会
参加者	委員長 加藤 義幸 副委員長 佐藤 哲朗 委員 中根 善明 酒井 正一 野島 さつき 野々山 雄一郎 杉山 智騎 井村 伸幸 築瀬 太
視察日時	令和5年1月23日（月）14:00～15:30
視察先・概要	千葉県浦安市 人口：169,918人 世帯数：81,940世帯 面積：17.30k㎡
視察項目	地域ねこ情報アプリの活用について
視察概要	<p>1 アプリの目的</p> <p>特定の飼い主がいない猫の適正飼育管理を進める上で必要となる地域猫情報を市民に提供する仕組みを構築し、猫の情報を広く市民と共有し、地域猫活動を実践する際のツールとして活用する。</p> <p>2 アプリの概要</p> <p>特定の飼い主がいない猫の不妊去勢手術を行う際に、手術対象となる猫の登録・管理を基本とするもので、猫の写真や特徴、飼育エリア、飼育管理方法などの関連情報を広く市民に提供し、地域猫活動をサポートする。また、不妊去勢手術の有無や猫の習性、適正な飼い方、よくある質問、関連施設並びに関連法令の情報を掲載し、お知らせ機能によるリアルタイムな情報を発信することも可能な、スマートフォン対応のアプリである。</p> <p>3 システムの主な機能</p> <p>(1) 業務管理システム</p> <p>ア 地域猫愛護員台帳管理</p> <p>イ 飼い主のいない猫台帳管理</p> <p>ウ 助成金帳票出力（交付決定通知書、額の確定通知書）</p> <p>エ 集計表出力（登録件数、手術予定件数、手術完了件数、支出額、交付内訳）</p> <p>(2) 一般公開システム</p> <p>ア 地域猫対策に係る関連情報の掲載</p> <p>イ 動物病院マップ</p> <p>ウ 関連法令情報の掲載</p> <p>エ Q & A 情報の掲載</p> <p>オ 市からのお知らせ情報の発信</p> <p>カ 問い合わせ情報の掲載</p>

所 感

※視察しての感想
や岡崎市への提
言など

- ・地域ねこ情報アプリについては、メニューはいろいろあるものの、どの猫をどの愛護員が管理しているのかを管理している台帳としてしか活用できていないとのことであり、計画した内容と結果に乖離があるようだった。また、愛護員も個人での活動となっていることから、各自の考え方で行動する側面があり、管理が困難になっているとのことである。去勢手術については、動物病院へ直接補助することで件数は伸びたものの、近隣市からの持込みも見受けられるようで、いろいろ課題を抱えていることが分かった。動物に関する行政の対応は、関係する住民への目的や考え方をしっかりと定着させる必要があると感じた。また、動物も人も市域を越えて移動することを踏まえ、近隣市と連携して取り組むことで効果が上がるのではないかと感じた。
- ・浦安市の歴史で、埋立てをしてきた土地ということもあり、猫が多かったのかということが推測された。また、市民が動物愛護員となって、地域猫を管理して増えすぎないように運営しているとのことであった。地域猫の情報アプリを自治体独自で作成しているところは珍しく、地域猫に対する取組姿勢の強さをうかがうことができた。地域猫の去勢避妊手術の費用を市民が自己負担なしでできることから、地域猫の対策に本気で取り組んでいる姿勢がうかがえる。地域猫の数は、導入から7年で約4分の1にまで減少した。ただ、アプリを作成して時間が経過しておりアップデートが必要な点や、動物愛護員を登録制にしたことでアプリ内の情報の更新が難しくなった点、去勢避妊手術に対しての補助額の上限を手術代として設定している獣医師が多くなってしまった点など、改善が必要なところが散見されるが、取組の姿勢としては見習う部分が多いと感じた。地域猫の問題は、環境の問題からも、また住民同士のトラブルが発生することからも、対策が必要である。地域猫に対しての自治体の在り方の一つの例として勉強になった。
- ・野良猫のふん尿被害や繁殖期の鳴き声など、地域住民とのトラブル解消のためアプリを導入し、地域猫をアプリに登録することによって愛護員の飼育・管理を可視化するとのことであるが、現状として情報の更新が迅速に進んでいないと聞き、本市へのアプリ導入の必要性は少ないと感じる。また、愛護員以外の人、道路や公園などでの餌やりなど、地域猫問題と同時に市民対応の難しさを感じた。
- ・地域猫の取組としてのアプリの活用は、工夫すれば有効に機能するのではと感じた。愛護員は、取り組みやすいように個人にしていたが、地域一帯で取り組んだ方が効果があるのではと感じた。また、本市には動物総合センターがあり、獣医師がいることに感謝したいと改めて感じた。
- ・アプリによる地域猫の「見える化」を実現できる先進事例として興味深い内容であったが、どうやら現在このアプリをうまく利用しきれていないとも感じた。愛護団体ではなく愛護員個人のリアルタイムな情

報更新などは、愛護員の中でも温度差があるのか、随時情報が更新されなければ、このアプリの良さは半減する。また、課題としては、特に①保健所と連携できていない、②市が関与することなく愛護員の判断で里親へ引き渡し可能、の2点が挙げられる。この点について本市はクリアできており、このアプリは本市の方が上手に活用できるのではと感じた。また、団体ではなく個人に愛護員の権限を与えることで、誰もが自分のやり方でボランティアに参加できる手軽さは理解できるが、捕獲せずに餌やりばかり行う愛護員がおり、それを見た一般の人でも餌やりをしてしまうという事例も聞いた。そもそも猫は愛玩動物であり、飼い猫を持つ人にも興味のある内容も入れ込んだらどうかと意見する。地域猫を減らすためにも、猫好きな人たちに魅力あるコンテンツをメインに（例えば「うちのにゃんこ」の写真投稿ができるなど）、そこで地域猫問題を併せて情報発信できるようなアプリを本市においても提案したい。

- ・地域猫情報アプリ「ニャンだあ！らんど」は、野良猫の不妊・去勢手術を促進し個体数を減らすという意味では先進事例で、アプリ化したことはすばらしい取組だった。ただ、汎用性、発展性という観点では全くうまくいっていない。アプリ自体が重く評判も決して良いとは言えない、随意契約で保守委託しているがアプリの機能もほとんど使えない状態とのことなので、新たに開発先を募集して再度構築し直したほうが良いと感じた。飼い主のいない猫不妊去勢手術費助成制度も、限度額を獣医師会の指定したものを設定していることも疑問である。本市の事業もどのように決定し、どのように運用しているかをしっかりとチェックし、やめたり縮減したりすることが大切であるので、改めて担当係ごとに確認することを強く要望する。
- ・飼い主のいない猫の情報を共有することを目的にアプリが開発され、ボランティアとして登録されている「浦安市地域猫愛護員」の活動をサポートしたり、猫の不妊・去勢手術を適切に行えるようにして地域猫活動を促進しており、市民が自分の周りで見かける猫が地域猫なのか否かを判断できるツールとしては、本市においても参考にできるものと感じた。基本的に地域猫愛護員が不妊・去勢後の餌やりなどの面倒を見るとのことなので、本市においても地域猫愛護員といった方の登録制を導入してはとも感じた。ただ、運用面で、形骸化しないような取組も必要と感じた。また、アプリについては、データ容量の関係で登録のみに留まっているようで、本市への導入を検討する場合は、地域猫として登録した猫の里親探しなど、事業拡大も視野に入れるべきと感じた。
- ・「地域猫愛護員の登録をしてもらい、地域ねこ情報アプリを活用し、飼い主のいない猫の不妊去勢手術費用を補助する制度を推進するという画期的な制度である」と、事前情報では理解していたところであるが、担当者の言葉からは様々な課題が挙げられ、事業の継続も不透

	<p>明なほどの説明に、正直驚いた。個人で登録という点がハードルを下げているメリットもあるが、自分都合の活動になりやすいのがデメリットである。町内会などの団体としてのほうが、トラブルが少ないと思うとの話は担当者の正直な気持ちと感じた。ただ、飼い主不明の猫の数が大きく減ってきているのは事実であり、効果があるだけに副反応も多いということであろうか。</p>
<p>委員長の総括</p>	<p>猫は飼い猫と野良猫の区別が難しく、また特定の飼い主がない猫も多く、猫によるトラブルの要因を減らすことが急務なことが背景としてあったことから、浦安市では平成28年11月1日から、地域猫情報アプリ「ニャンだぁ！ランド」の運用を開始した。本アプリは、特定の飼い主がない猫の適正飼育管理を進める上で必要となる地域猫情報を市民に提供する仕組みを構築し、猫の情報を広く市民と共有し地域猫活動を実践する際のツールとして活用していこうというものである。不妊・去勢手術対象猫の登録・管理を基本とし、写真や特徴、飼育エリア等関連情報を掲載しており、狙いとしては事務の効率化、地域猫活動の普及啓発等がある。しかし、特定の猫愛好家にしかこのアプリが普及せず、広く市民との共有ができていなかったのが実情としてあり、内容の更新も思いのほかできていなかったため、アプリを十分に活用しきれていなかったのではと感じた。せっかく導入されたアプリであるので、例えば犬の情報も掲載し、広くペット愛好家、市民に普及することができれば、本来の目的も達成できるのではないか。</p>